

令和5年度

研修のあゆみ

— 年報 —



山形県青年の家

目 次

はじめに 「人と人とのつながり」	
1	令和5年度 運営のあり方…………… 1
2	事業
(1)	YYボランティアビューロー…………… 2
(2)	ボランティア指導者研修会…………… 6
(3)	ボランティア実践セミナー…………… 7
(4)	ボランティアの集い…………… 8
(5)	青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」運営…………… 9
(6)	青少年防災・減災未来フォーラム2023…………… 12
(7)	地域をつくるリーダーセミナー…………… 13
(8)	持続可能な社会づくり体験1、2…………… 14
(9)	若者自立支援体験活動1、2…………… 16
(10)	家庭教育支援研修会1、2…………… 18
3	令和5年度研修利用団体一覧…………… 20
4	令和5年度研修利用状況…………… 22
5	令和5年度研修実績一覧…………… 24
6	組織及び職員構成…………… 25

研修事業の移り変わり（過去5年間）

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	区分	令和4年度	令和5年度
青少年育成・ボランティア	YYボランティアビューロー	YYボランティアビューロー	YYボランティアビューロー	青少年育成・ボランティア	YYボランティアビューロー	YYボランティアビューロー
	・YYボランティアの集い ・ボランティア関係者研修会 ・青年の家開所60周年記念「YYボランティア推進研修会」 ・ボランティア実技研修会 ・地域と学校の防災力を高める研修会	・YYボランティアの集い ・ボランティア関係者研修会 ・ボランティア実技研修会 ・地域と学校の防災力を高める研修会 ・TAT（TEAMオールてんどう）プロジェクト②	・YYボランティアの集い ・ボランティア関係者研修会 ・ボランティア実技研修会 ・地域と学校の防災力を高める研修会 ・TAT（TEAMオールてんどう）プロジェクト②		・ボランティアの集い ・ボランティア指導者研修会 ・ボランティア実践セミナー ・青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」運営	・ボランティアの集い ・ボランティア指導者研修会 ・ボランティア実践セミナー ・青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」運営
リーダーの育成	青年による持続可能な地域づくり推進事業	次世代の地域づくり中核人材育成事業TATプロジェクト①③	次世代の地域づくり中核人材育成事業TATプロジェクト①③	青少年の支援地域	次世代の地域づくり中核人材育成事業	次世代の地域づくり中核人材育成事業
	高校生主催者教育セミナー	地域をつくるリーダーセミナー	地域をつくるリーダーセミナー		・青少年防災・減災未来フォーラム ・地域をつくるリーダーセミナー ・持続可能な社会づくり体験「SDGs×スボGOMI」「SDGs×地域文化」	・青少年防災・減災未来フォーラム ・地域をつくるリーダーセミナー ・持続可能な社会づくり体験「SDGs×スボGOMI」「SDGs×地域文化」
青少年に代る課題への対応	若者自立支援活動家庭教育支援研修会オールてんどう社会教育懇談会	若者自立支援活動家庭教育支援研修会	若者自立支援活動家庭教育支援研修会	青少年に代る課題への対応	・若者自立支援体験活動「スポーツでわいわい」「アートでわいわい」 ・家庭教育支援研修会「食育×スポーツ」「コミュニケーション×アート」	・若者自立支援体験活動「スポーツでわいわい」「アートでわいわい」 ・家庭教育支援研修会「食育×スポーツ」「コミュニケーション×アート」

表紙 写真 上：『SDGs×地域文化』、『食育×スポーツ』の集合写真
 中：『ボランティアサークル「nicoこえ』、『SDGs×スボGOMI』の集合写真
 下：『青少年防災・減災未来フォーラム』の集合写真

人と人とのつながり

所長 佐藤 若

<はじめに>

「青年の家は何をすところですか」と聞かれることが多くありましたが、教員人生の中で、これほど社会教育の重要性を実感した年はありません。Society5.0が到来し、AIがいくら発達して持続可能な社会になっても、学校・社会・家庭教育の関連を図ること、地域を活性化するには「人とのつながり」、それも温かいつながりが必要です。青年の家はその橋渡しをしています。それを実現しているのは所員の「社会教育」に対する深い理解、高い情熱、独創的な発想力、人と人をつなぐ行動力です。「持続可能な社会づくりへの参画を促し、自立と共助の精神に満ちた青少年の育成」に向けて十分取り組んできたと思っています。

<主催する研修等>

- (1) 青少年ボランティアの育成・支援に係る研修
ボランティアの集い、ボランティア指導者研修会、ボランティア実践セミナー、「nicoこえ」運営
- (2) 青少年の地域活動の支援に係る研修
青少年防災・減災未来フォーラム、地域をつくるリーダーセミナー、持続可能な社会づくり体験「SDGs×スポGOMI」「SDGs×地域文化」
- (3) 青少年に関わる現代的課題への対応に係る研修
若者自立支援体験活動「スポーツでわいわい」「アートでわいわい」、家庭教育支援研修会「食育×スポーツ」「コミュニケーション×アート」

<YYボランティアの中央センターとして>

学校の外でのボランティア活動は確実に拡大しています。夏の体験ボランティアの参加者数は1387名と昨年度の倍近くに増加、YYボランティアの会員数も増加傾向にあります。サークル同士の交流も増え、YYボランティアの意義と価値を改めて感じる事ができた1年間でした。

<飛躍できたこと>

- 青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」の活躍
「nicoこえ」は地域や世代の垣根を越えてYYボランティアに成果を還元していこうと活動するサークルで、メンバーは中学生から社会人を含む46名(12月段階)。軸となる「レモネードスタンド」をはじめ、グリーンモール商店街、園児とのお楽しみ会、モンテディオ山形のSDGsブースや主催事業のボランティアなど充実した活動を行っています。
- レモネードスタンドプロジェクトからMake Lemonade プロジェクトへ
小児がん支援のために、レモネードスタンドへの売上を支援団体に寄付する活動ですが、「nicoこえ」単独として、また、他団体とも協働して県内各地で行われ、今年度2月に山形大学医学部に寄付することができました。立ち上げた思いを形にすることができましたが、来年度はさらに持続可能な取組の計画をしています。
- SNSを活用した情報発信（インスタグラム、X等）
合わせて取り組んだ情報発信では、ほぼ毎日更新しているインスタグラムのフォロワーは2,600を超えました。情報提供や活動のPRを充実させ、人の輪を広げていきます。

1 令和5年度 運営のあり方

I 教育目標

多様な活動や交流をとおして持続可能な社会づくりへの参画を促し、自立と共助の精神に満ちた青少年を育成する。

II 運営方針

- 1 人や社会との関わりにつながる多様な交流・体験活動の機会や情報の提供を通じて、地域社会への主体的な参画を促し、青少年の社会力の育成に努める。
- 2 学校及び関係機関・団体との連携を通じて、社会教育と学校教育をつなぎ、次代を担う人づくりに努める。
- 3 安全・安心な施設管理とコミュニケーションを重視した心の通う施設運営を通じて、豊かな人間関係づくりを支援し、青少年の健全育成に努める。

III 運営の重点

- 1 研修プログラムの開発・提供（主催事業）
 - (1) 青少年ボランティアの育成・支援に係る研修
 - ① 青少年ボランティア活動及び指導者への支援の充実
 - ② 青少年の社会貢献に係る興味関心を学びと実践につなげる研修の提供
 - ③ ボランティアサークル「nicoこえ」の活動充実
 - (2) 青少年の地域活動の支援に係る研修
 - ① 地域のよさや課題を捉え、地域の人との協働につながる研修の提供
 - ② SDGsを体験的に学ぶ機会の提供
 - ③ 青少年の防災・減災教育に資するフォーラムの開催
 - (3) 青少年に関わる現代的課題への対応に係る研修
 - ① 特別な事情を有する青少年の自立支援に資する体験機会の提供
 - ② 子どもと一緒に参加でき親子に笑顔が生まれる家庭教育支援研修の提供
 - ③ スポーツやアートなど多様な研修プログラムの開発・提供
- 2 地域青少年ボランティア活動推進事業（主管事業）
 - (1) 中高生の心に届ける「夏の体験ボランティア」キャンペーンの展開
 - (2) 学校・市町村・関係団体等への支援に資する情報収集と提供
- 3 次世代の地域づくり中核人材育成事業（事務局支援）
 - (1) 各地区の実践記録集の作成と配布を支援
- 4 関係機関・団体等との協働の推進
 - (1) 研修プログラムの質の向上に資する多様で新しい関係者との協働の推進
- 5 青少年のICT環境に対応した広報の推進
 - (1) 青少年に「伝わる」「つながる」ことを重視した広報の充実
- 6 施設の有効利用と安全管理
 - (1) 県民の多様なニーズに応えられる施設運営と広報
 - (2) 定期的な施設・設備の安全点検による事故防止
 - (3) 防災・防犯に資する安全管理マニュアルの点検改善と各種訓練の実施

2 事 業

(1) YYボランティアビューロー

1 YYボランティアビューローについて

県内の地域青少年ボランティア（YYボランティア）の中央センターとして、YYボランティアの活動や関連事業の情報等を、InstagramやX、YYボランティアビューローホームページを通じて積極的に県内外に発信した。SNSのフォロワー数が増加したことで、ホームページへの閲覧誘導に貢献している。

「夏の体験ボランティア」については、昨年度よりも実施団体や参加者が大幅に増加し、大きな成果があった。また、「出前講座」の実施数についても大幅に増加し、16の学校・団体で実施することができた。YYボランティアの周知を図るために、今年度は県内全高校でYYボランティアの活動を紹介する展示の巡回（YYボランティアキャラバン）を行ったが、アンケート結果を見ると、残念ながら認知度向上には至っていないのが現状である。

2 山形県地域青少年ボランティア推進会議

地域青少年ボランティアの活性化を図るために、各サークルの指導者や学校・教育行政・社会福祉協議会など幅広い関係者に推進委員を引き受けていただき、様々な見地から意見や助言・提言をいただいた。（第1回、第2回ともリモート開催）



第1回の会議では、本事業の事業計画や高校3年生のボランティア活動の現状と課題を報告した。協議では、県内青少年ボランティア活動の推進に向けて、「各サークルや学校などの多様

な主体との連携・協働体制の構築」について意見や情報を交換した。



第2回では、一年間の活動報告を行い、ブレイクアウトセッションにより班毎に本年度におけるボランティア活動の動向と令和6年度地域青少年ボランティア活動推進に向けての具体的なアクションを話し合い、全体共有を行った。

〈推進会議委員〉 ※敬称略

松田 道雄(尚絅学院大学 人文社会学群 教授)

渡邊 哲也(村山地区YYボランティア指導者)

井上多加志(最上地区YYボランティア指導者)

小川 真実(置賜地区YYボランティア指導者)

菅原 知子(庄内地区YYボランティア指導者)

菊地 忍(県社会福祉協議会地域福祉部副部長)

高橋 陽介(ひがしねあそびあランド主幹)

石山 重典(天童市立第四中学校長)

高橋 良治(県立山形工業高等学校長)

軽部隆一郎(県教育局義務教育課指導主事)

滝口 和典(県教育局高校教育課指導主事)

3 YYボランティアサークル支援

ボランティア活動を普及させるために、学校関係やYYボランティアサークル等からの依頼に対して、職員が学校や公民館、その他の施設に出向いて実施している。主に学校やサークルでは、今後の様々



な活動を円滑に行えるようなアイスブレイキングや県内サークルのボランティア実践例などの紹介を含めたボランティア講座を行っている。

また、新たなボランティアサークル（山形市社会福祉協議会「MICAN」）の立ち上げ支援を行うことができた。



〈出前講座実施一覧〉 ※指導者含む

4/11(火)東桜学館高校1年	212名
山形東高校1年	250名
4/12(水)上山明新館高校1年	207名
4/13(木)寒河江工業高校1年	98名
5/18(木)山形大学工学部フレックス	53名
6/19(月)上山明新館高校JRC	35名
6/20(火)MYボランティアセミナー(村山)	91名
7/14(金)天童高校1年	125名
YYボランティアサークルBen's	6名
8/10(木)山形市社会福祉協議会	50名
8/23(水)南陽高校JRC	25名
9/7(木)赤湯中学校生徒会	32名
9/12(火)左沢高校JRC	14名
10/5(木)置賜農業高校園芸福祉科3年	13名
天童一中生徒会	10名
11/22(水)谷地高校1年	36名

4 情報の収集・提供及びホームページ

(1) 『山形県の青少年地域活動団体一覧』

12月に、地区ごとの団体数、人数、年代構成等について年一回の調査を実施している。

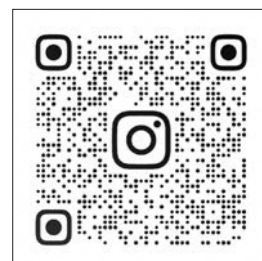
2023年12月現在活動中の団体は、YYボランティアサークルが46団体（783名）、青年団体が80団体（1,356名）である。内容はデータとして編集し各サークルはじめ関係機関に送付して

情報を提供した。YYボランティアサークルは1減1増、会員数は100名以上増加した。青年団体は1団体増加したものの、会員数は300名以上減少している。

(2) ホームページの運用

各地区教育事務所やボランティアサークルからの情報提供だけでなく、青年の家職員が現場に出向き取材した内容など、頻繁に更新し、情報の発信に努めている。また、ホームページへの閲覧誘導や青少年ボランティア活動の推進を目的としてSNSを利活用し、インスタグラムでは日常の話題を含め、YYボランティアサークルの活躍の様子、青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」の話題など、1日1投稿を目標にアップし、投稿227、フォロワー2,617、フォロワー3,347（2024.3.18現在）になっている。また、Xにおいてもインスタグラムと連動し、ホームページへの誘導に貢献し198件のポスト、716フォロワー、1,099フォローとなっている。（2024.3.18現在）

一方で、昨年度YouTubeを開設したが、今年度は1回のアップにとどまっている。



5 夏の体験ボランティア

各サークル及び団体・施設からボランティア企画を集めて地区ごとにリーフレットとしてまとめ、県内の中学生及び高校生全員に対して配布し、ボランティア体験が可能な場の情報を提

供した。

アフターコロナの状況もあり、中高生のボランティア活動へのニーズの高まりを受け、昨年度よりも企画数を増やすべく、受け入れ先の新規開拓を含めて広報活動を積極展開し、企画数を大幅に増加させることができた（昨年度52企画、協力団体41→今年度89企画、協力団体74）。参加者数も昨年度の744名から1387名と大きく増加した。それでも、受け入れ先からは「定員を上回る募集があり、お断りをしなければならなかった」との感想・意見が多く寄せられ、さらなる新規受け入れ先の開拓を進める必要が感じられた。また、青年の家職員が可能な限り活動場所を訪れ、取材を行い、その様子をSNSやYYボランティア・ビューロー HPで紹介した。



6 高校3年生のボランティア活動実態調査

県内の全日制の高等学校に依頼して、調査紙を配布し回収する形で、高校3年生を対象とした調査を行った。県内の全高校生の在学中のボランティア活動経験率77.0%（公立高校81.6%、私立高校68.2%）となり、経験率が上昇した（昨

年度経験率73.5%、公立高校77.1%、私立高校65.6%）。高校生が取り組んでいるボランティア活動の分野は環境整備（46.0%）、文化振興（24.9%）、子育て支援（8.6%）などであった。また高校生が関心を持つボランティア活動分野として文化振興（22.8%）、環境整備（19.9%）、子育て支援（15.0%）の順になった。

7 成果・課題

(1) 成果

- ①YYボランティア中央センターとして、県内4つの地区センターと連携し、市町村教育委員会や県・市町村社会福祉協議会等、関係機関と情報共有・情報交換を進め、協働的に青少年ボランティアの推進を行うことができた。
- ②新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、停滞気味であった活動を活性化することができた。出前講座の実施回数の増加、夏の体験ボランティアの企画数・参加者数の増加などに成果が現れたと思われる。
- ③青少年ボランティアの広報・推進に関して、SNSを最大限活用し、中高生に直接届くような情報発信を心掛け、YYボランティア・ビューロー HP閲覧への誘導を試みている。YYボランティアの周知策のひとつとして確立し、会員数の増加に繋げたい。

(2) 課題

- ①ほとんどの中高生が、「YYボランティア」という存在を知らないのが現状である。上記のYYボランティア・ビューロー HPへの閲覧誘導だけではなく周知策が必要である。
- ②急激な少子化にあって地域主体のボランティア・サークルの規模が縮小傾向にある。市町村とさらなる連携を深め、サークル支援を強化する必要がある。
- ③青少年のボランティア活動の推進のためには、中学校・高校でのボランティア活動の経験が自発的なボランティア活動の入口になり得ると考える。そのような意味で、学校におけるボランティア活動の意義を啓発していく。

8 参考数値

(1) 令和5年度 青少年地域活動団体の状況

【サークル数の状況】

① YYボランティアサークル

地区	R4	R5	増減
	村山	15	
最上	10	10	0
置賜	8	7	-1
庄内	13	13	0
県全体	46	46	0

【サークル会員数の状況】

① YYボランティアサークル

地区	総数		男子		女子		小学生		中学生		高校生		大学生等		勤労青年	
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5
村山	189	256	47	63	142	193	0	0	66	82	111	155	6	11	6	8
最上	92	131	10	25	82	106	0	0	2	13	90	104	0	12	0	2
置賜	220	162	47	38	173	124	65	54	84	67	71	41	0	0	0	0
庄内	173	234	36	70	137	164	0	0	107	117	66	117	0	0	0	0
県全体	674	783	140	196	534	587	65	54	259	279	338	417	6	23	6	10

② 青年地域活動団体数

地区	R4	R5	増減
	村山	30	
最上	8	8	0
置賜	32	32	0
庄内	9	9	0
県全体	79	80	1

② 青年地域活動団体数

地区	総数		男子		女子		小学生		中学生		高校生		大学生等		勤労青年	
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5
村山	930	593	360	171	570	422	0	0	2	2	7	7	792	447	129	137
最上	83	102	28	52	55	50	0	0	2	2	29	19	16	14	36	67
置賜	516	530	281	310	235	220	9	8	4	4	11	11	123	153	369	354
庄内	150	131	76	71	74	60	0	0	0	1	32	43	70	47	48	40
県全体	1,679	1,356	745	604	934	752	9	8	8	9	79	80	1,001	661	582	598

③ 合計 (①+②)

地区	R4	R5	増減
	村山	45	
最上	18	18	0
置賜	40	39	-1
庄内	22	22	0
県全体	125	126	1

③ 合計 (①+②)

地区	総数		男子		女子		小学生		中学生		高校生		大学生等		勤労青年	
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5
村山	1,119	849	407	234	712	615	0	0	68	84	118	162	798	458	135	145
最上	175	233	38	77	137	156	0	0	4	15	119	123	16	26	36	69
置賜	736	692	328	348	408	344	74	62	88	71	82	52	123	153	369	354
庄内	323	365	112	141	211	224	0	0	107	118	98	160	70	47	48	40
県全体	2,353	2,139	885	800	1,468	1,339	74	62	267	288	417	497	1,007	684	588	608

(2) 「季節の体験ボランティア」参加者数の推移

●活動体験者数 (ボランティアサークル未加入者)

	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27
小学生	121	6	9	*	23	19	36	40	95
中学生	329	171	96	*	266	226	231	279	298
高校生	592	475	116	*	766	982	738	655	710
大学生等	13	1	3	*	55	46	17	21	23
その他	137	16	22	*	33	111	57	97	122
担当職員	109	26	28	*	44	87	37	64	239
合計	1,301	695	274	*	1,187	1,471	1,116	1,156	1,487

●活動会員数 (ボランティアサークル会員)

	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27
小学生	0	0	0	*	0	0	10	0	0
中学生	20	15	8	*	14	23	16	37	27
高校生	44	24	58	*	130	177	92	116	145
大学生等	3	0	0	*	0	3	0	0	2
その他	9	3	1	*	12	4	1	8	4
担当職員	10	7	3	*	8	36	12	20	16
合計	86	49	70	*	164	243	131	181	194
総合計	1,387	744	344	*	1,351	1,714	1,237	1,337	1,681

(注)・平成29年度からは「夏の体験ボランティア」のみ実施。

・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から実施しなかった。



(2) ボランティア指導者研修会

1 ねらい

- (1) Y Yボランティア創始者からその歴史や考え方を学び、継承する。
- (2) 各ボランティアサークルの活動や課題を共有しながら、新時代の「山形方式」を考える。

2 期日・会場

令和5年5月26日(金)・県青年の家

3 参加対象

市町村教育委員会社会教育担当課職員
青少年ボランティアサークル担当者
社会福祉協議会ボランティア担当者等

4 日程

- 10:00 オープニング
10:15 講演「素晴らしきY Yボランティア」
講師：堀米 幹夫 氏
11:50 写真撮影
12:00 昼食・休憩
13:00 活動事例発表およびワークショップ
「新時代の『山形方式』を考える」
発表者：菅原 知子 氏
(三川町「来夢来人」指導者)
ワークショップテーマ：
募集・活動・連携・協働・可能性
15:45 アンケート入力
15:55 クロージング

5 参加者

参加者総数31名

- | | |
|------------|-----|
| ・生学課、教育事務所 | 9名 |
| ・市町村教育委員会 | 11名 |
| ・社会福祉協議会 | 6名 |
| ・社会教育施設 | 1名 |
| ・学校関係 | 3名 |
| ・大学生 | 1名 |



6 成果・課題

(1) 成果

- ①堀米幹夫氏の笑いあり涙ありのご講演に対して「感動した」「目頭が熱くなった」「思いを受け継ぎたい」などという感想が非常に多く、指導者が使命感を持ってY Yボランティアを継承してくれることが大いに期待される。
- ②ワークショップでは三川町「来夢来人」の事例発表を受け、5チームに分かれてテーマに基づいて熱のこもった話し合いを行うことができた。
- ③市町村教育委員会や社会福祉協議会、学校関係者など、様々な立場でチーム編成を行ったことで交流が深まるとともに相互理解ができた。

(2) 課題

「話し合いの時間が足りない」という意見が多く出た。Y Yボランティアを何とかしたいという思いに足る研修時間の確保が課題である。



(3) ボランティア実践セミナー

1 ねらい

ボランティアに携わる青少年等に、ボランティアに対する理解を深め、活動に役立つ知識・技術を習得し、新たな活動分野について考える機会を提供する。

2 期日・会場

令和5年9月2日(土)

会場：山形県青年の家

3 参加対象

- (1) YYボランティアサークルで活動している中高生及び担当者
- (2) 高校の部活動等でボランティア活動を行っている高校生及び担当者
- (3) 青少年ボランティアに興味・関心のある方

4 日程・内容

- 9:30 開会行事
9:40 疑似体験「疑似体験を通して知的・発達障がいへの理解を深めよう！」
講師：花笠ほーぶ隊
12:00 昼食
13:00 実技講習「アイスブレイキングのコツを学び実践しよう！」
講師：山形県レクリエーション協会
15:00 振り返り・全体共有
15:20 アンケート入力・閉会行事

5 参加者

参加者総数13名+見学者3名

(中学生1名・高校生11名・成人4名)



6 成果と課題

(1) 成果

- ①アンケート結果より、午前・午後のプログラムともに、参加者に有意義な内容を提供することができ、満足度の高い研修会となった。
- ②「今回のセミナーで学んだ知識や技術をこれからの活動で実践していきたい」という感想も見られ、新たな活動分野について考える機会にもなり、意義のある研修会となった。

(課題)

- ①土曜日開催は、「中学・高校生は部活動や学校行事、模試、習い事等で参加できない」との声が多くあり、参加者が集まらなかった。次年度以降の主催事業は日曜日開催にした方がよいと考える。また、学校によっては、「夏休み期間中に申込締切となってしまったため生徒に参加を促せなかった」との声があったことから開催の時期の再検討が必要だと感じた。



(4) ボランティアの集い

1 ねらい

- (1) ボランティア活動に携わる青少年の交流を促進する。
- (2) ボランティア活動の実践を学び、青少年ボランティア活動の活発化を促進する。

2 期日・会場

令和6年2月4日(日)・県青年の家

3 参加対象

中学生以上のボランティア活動に興味がある方

4 日程

- 9:30 開講式
9:40 アイスブレイキングで仲良くなろう
講師：土橋 明晃 研修主査
10:20 YYボランティアを学ぼう
講師：石井 貴之 研修主査
10:45 ボランティア実践事例報告
①南陽高校JRC・インターアクト部
②上山明新館高校JRC委員会
③東海大山形高校JRC部
④二十四孝PART II (大石田町)
⑤夢懂布 (大江町)
⑥nicoこえ (青年の家)
11:35 写真撮影
11:50 昼食・休憩
12:40 青年の家ウォークラリー
13:20 「壁面月飾り」をつくろう
15:20 ボランティアを語ろう
15:35 アンケート入力
15:40 閉講式

5 参加者

参加者数 50名

(社会人6名、高校生34名、nicoこえ10名)



6 成果・課題

(1) 成果

アンケートの「全体を通してどうでしたか?」の問いに対して「とてもよかった」が77.1%、「よかった」が22.9%であり、この2つで100%であったため、成果が見られた研修となった。

「アイスブレイキング」では土橋主査の指導のもと、だんだん心が通い合い、会場が笑顔と元気な声でいっぱいになっていった。「YYボランティアを学ぼう」「実践事例報告」では山形の青少年のボランティアの実情を学ぶとともに今後どうボランティアと関わっていくかなどを考える時間となった。写真撮影の時間は、令和6年度のYYボランティアのポスターの写真も撮影した。「ウォークラリー」では各チームごと青年の家館内を巡りながら楽しく活動していただけたと思う。正解チーム(全チーム)に賞品として「もちこ」を配布し食べていただいた。「壁面月飾りづくり」では、くじ引きで作成する月を決めて取り組んでいただいた。折り紙や画用紙、モールなど様々なアイテムを工夫して配置し、各チームとも知恵を出し合いながら協力しながらオリジナル感あふれる作品を作り上げてくれた。

何より、「楽しかったです!」「また来ます!」の声が多く聞かれたのは何よりの成果であった。

(2) 課題

欠席者が10人と多く、その対応は毎度苦慮する。「宿泊して研修したい」という声もあるため、そのニーズに対応できる研修の在り方への見直しが必要と思われる。

(5) 青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」運営

1 ねらい

- (1) YYボランティアサークルとしてこれまで継承されてきた機能を大切にしながらも新たな取り組みを実践し、現代に相応しいYYボランティアの在り方を模索しながらサークルとしてのロールモデルづくりを行う。
- (2) 青少年の社会貢献への意欲や自己成長への希望に応える、継続性のある多様な活動や交流機会を提供し、人と人とのつながりに学ぶ青少年の拠点施設としての役割を果たす。
本所研修課職員の青少年育成に係る専門的知識・技術や本所が有する人的ネットワークを活用したボランティア活動を実現する。
- (3) ボランティアサークルの継続的支援を通して、「プレイヤー」として得たボランティア指導に係る情報や知見を、本所の研修事業の質の向上に活用する。

2 募集期間

通年

3 対象

高校生、大学・短大・専門学校生等
(天童市エリアでの活動に参加できる方)
《2023活動メンバー (R 6 / 2 / 15現在)》

代表 菊池 柚香 (山辺高校3年)

副代表 荒木 美咲 (山辺高校3年)

会計 渡辺 紗矢 (山辺高校3年)

【社会人ファシリテーター】

高橋宏治、野口翔太、佐藤友佳

【学生ファシリテーター】

新田ゆい (山形大学)

【高校生メンバー】

伊藤凜乃・日向杏帆(山形北高)佐々木真(ヒューマンキャンパスのぞみ高)、平田寧々・赤木天舞(東海大山形高校3年)、菊池柚香・荒木美咲・渡辺紗矢・阿部苺子・新松更紗・大石璃虹・早坂美光・渡辺果歩・木村万葉(山辺高)、鈴木愛子(山形東高)、武田花梨・平田祐月・山口玲美(天童高校)佐藤奏(寒河江高)

【中学生メンバー】

天野愛唯・天野花菜(山形二中)、坂本里奈・酒巻由水香・折原颯雅(天童一中)、滝口叶大・須藤藤心・山科夢愛・尋嶋麻彩(天童二中)

4 名称由来、活動方針等

令和4年度「研修のあゆみ」に記載

5 おもな活動

- (1) レモネードスタンド(小児がん支援)
「山形レモネードスタンドプロジェクト」
- (2) グリーンモール天童商店街活性化
「Lemonbowプロジェクト」
- (3) モンテディオ山形SDGsブースボランティア
- (4) ゴミ拾い等日常的な活動
- (5) その他様々なボランティア活動に参加



6 成果

総じて、非常に活発な活動を行うことができた。

- ① 自走に向けた準備態勢をつくることができた。
- ② 他サークルや学校との協働が実践された。
- ③ 2つのプロジェクトが社会的認知度を得ながら大きな評判となった、以上3つについては特筆すべき成果である。

(1) レモネードスタンド

「山形レモネードスタンドプロジェクト」を立ち上げ、県内各地で多くの方々のご協力を得ながら小児がん支援活動を実践した。結果、1,002,596円の支援金が集まり、令和6年2月14日に山形大学医学部小児科学講座へ寄付した。



(2) グリーンモール天童商店街活性化

「Lemonbowプロジェクト」を立ち上げ、特に2年生を中心としたメンバーが小児がん支援のレモン風味のお菓子を企画し、製品化され販売された。売り上げの一部として32,040円を山形大学医学部小児科学講座へ寄付した。また、「グモ天祭」や「モンテディオ

山形アウェイサポーターおもてなし企画」においてスタッフとして協力した。



- (3) モンテディオ山形SDGsブースボランティア
おもに「ユニバーサルスポーツ体験コーナー」のスタッフボランティアに従事。スタッフボランティアのあり方やSDGs、ユニバーサルスポーツについても知見を広げた。また、他サークルのメンバー等とも交流を図りながら活動を行った。



- (4) ゴミ拾い等日常的なボランティア
グリーンモール天童商店街を中心としたゴミ拾い活動を継続的に実践した。
- (5) その他様々なボランティア活動
- 夏ボラ「海の日」は舞鶴山でゴミ拾い&小児がん支援を学ぼう」を開催し、運営側としてのボランティアを体験した。
 - 日本一の芋煮会フェスティバルスタッフボランティア



- 園児とのクリスマス会（村山教育事務所主催の東南村山のMYボラ交流会として実施）
- 3月11日・12日に1泊2日の合宿を開催。「防災」「小児がん」「サークル運営」について学ぶとともに親睦を深めた。
- プランターに花を植えて、天童市内の中学校およびメンバーが所属する山形二中に寄贈した。



(6) 助成金等

- ① 荘内銀行ふるさと創造基金（14万円）
- ② 山形県生涯学習センター（5万円）
- ③ 榊さのや（5万円）
- ④ グリーンモール天童商店街（3万円）
- ⑤ キワニスクラブ（5千円）
- ⑥ 山新放送愛の事業団(Tシャツ25着ビブス30着)

6 課題

活動の活発化に伴い、多方面からボランティア活動の依頼（特にレモネードスタンド）や講演依頼も増えている。可能な限りメンバーの力で実践させたいが、青年の家職員が対応することの方が多くのが現実である。また、土日の活動がほとんどであるため、職員の勤務についても課題が多い。「仕事」としてできるか、「ボランティア」として対応すべきかを検討すべきであるが、「nicoこえ」の活発な活動を妨げるようであってはならないと考える。今後はサークル運営の多くを青年ファシリテーターに委ねる体制づくりが急務である。



**小児がん患者支援で
山形大に100万円寄付**
県内の高校生

レモネードを販売して小児がん患者への支援を募る「山形レモネードスタンドプロジェクト」に取り組み県内の高校生が14日、活動を通じて集まった103万4636円を山形大医学部に寄付した。

プロジェクトは、県青年の家（天童市）がコーディネートし、中高生や大学生ら約30人によるボランティア

平田寧々さん（右から2人目）が三井哲夫教授（右端）に目録を手渡した
山形市・山形大医学部

山形市立高等学校の平田寧々さん（右から2人目）が、山形大学医学部の三井哲夫教授（右端）に、レモネードスタンドプロジェクトの活動目録を手渡した。平田さんは、このプロジェクトを通じて集まった103万4636円を山形大医学部に寄付した。

（18）東海大山形高3年が呼びかけ、本年度から繰り広げる。各地の催しに参加してレモネードスタンドを開いたほか、趣旨に賛同した70超の学校や団体、個人がレモネードの販売や広報活動に協力した。

山形市の同学部で贈呈式が行われた。平田さんは「病中の子どもの笑顔が少しでも増えてほしい」とあいさつし、三井哲夫教授（小児科学講座）に目録を手渡した。三井教授は「活動によって地域の理解が深

まり、誰ひとり取り残さない社会の実現につながればいい」と話した。

レモネードスタンド活動は、小児がんを患った米国の少女の取り組みをきっかけに、世界中に拡大した。「nicoこえ」は2024年度も規模を拡大してプロジェクトを継続する計画。同学部は、小児がんに関する研究に加え、付属病院小児科病棟にあるプレイルームの環境整備などへの寄付金活用を検討している。

（三井 瑛人）

「山形新聞 2024年2月15日(木)より」
山形新聞社提供



天童市の県青年の家がコーディネートするボランティアサークル「nicoこえ」（菊池由香代表）が9日、小児がん治療への支援を目的とした「山形レモネードスタンドプロジェクト」を始動させた。レモネード販売を通して支援金を集める取り組みで、県内の小児がん患者に、年内に贈呈することを目指す。

一杯から始まる命の輪



「レモネードスタンド」始動

レモネードスタンド活動は、県青年の家（天童市）がコーディネートし、中高生や大学生ら約30人によるボランティアが9日、小児がん治療への支援を目的とした「山形レモネードスタンドプロジェクト」を始動させた。レモネード販売を通して支援金を集める取り組みで、県内の小児がん患者に、年内に贈呈することを目指す。

「山形新聞 2023年3月10日(金)より」
山形新聞社提供

天童市の県青年の家がコーディネートするボランティアサークル「nicoこえ」が、同青年の家に隣接するグリーンモール天童商店街（通称・グモ天）の菓子店「菓子町 大坂屋」とコラボし、レモンを使った菓子「もちこ」を開発した。14日に同市総合福祉センターで開かれる「いきいき・ふれあい健康福祉まつり」でデビューする。

天童 ボランティア団体、地元菓子店とコラボ

「nicoこえ」は、支援金を集める「山形レモネードスタンドプロジェクト」を継続する計画。同学部は、小児がんに関する研究に加え、付属病院小児科病棟にあるプレイルームの環境整備などへの寄付金活用を検討している。

レモン菓子誕生 名は「もちこ」

「nicoこえ」は、支援金を集める「山形レモネードスタンドプロジェクト」を継続する計画。同学部は、小児がんに関する研究に加え、付属病院小児科病棟にあるプレイルームの環境整備などへの寄付金活用を検討している。

「山形新聞 2023年10月12日(木)より」
山形新聞社提供

(6) 青少年防災・減災未来フォーラム2023

1 ねらい

東日本大震災から12年が経ち、その後も自然災害の激甚化が進む状況の中で、防災・減災の意識を高める教育が大切であり、特に次世代を担う若者の防災意識と社会参画意識の育成が必要である。これからの担い手である青少年に対話と実践を通し「助けられる」から「助ける」への意識を育む。

2 期日・会場

令和5年9月16日(土)・山形県青年の家

3 参加対象

県内の高校生、大学・短大・専門学校生、ボランティアサークル・団体のメンバーや指導者

4 日程

- 9:00 受付開始
- 9:20 アイスブレイキング
- 9:30 オープニング
- 9:40 「災害発生後の課題と対応」
ワークショップ①
- 11:10 「避難所運営の実際と教訓」
ワークショップ②(前半)
(昼食休憩)
- 13:00 「避難所運営の実際と教訓」
ワークショップ②(後半)
- 14:30 「心のレジリエンス」
～コロナ禍で失ったもの、見つけたもの～
- 15:30 若者からのメッセージ(提言)
「災間を生きる者として」
～命と向き合い、命をつなぐ防災～
- 16:00 振り返り、アンケート記入、クロージング

5 講師

齋藤 幸男 氏

(東北大学非常勤講師・元石巻西高等学校長)



6 参加者

参加者総数34名

(高校生31名、成人1名)

7 成果・課題

(1) 成果

- ①講師の避難所運営の経験を交え、受講者に気づきを与えながら、わかりやすくワークショップを展開できた。
- ②これからの地域の担い手である若者に、防災・減災についての当事者意識を持たせ、実際の避難所運営の課題や対策を考え、共有することができた。
- ③講師のエネルギッシュな指導により、参加者の満足度が非常に高い研修会となった。

(2) 課題

- ①募集を早めにして周知の徹底を図ったが、申し込みが少なく、近隣高校の先生方に依頼し、やっと参加者が増加した。届いてほしい担当者に情報が行き届いていない様子が伺えたので、周知の仕方を検討しなければならない。



(7) 地域をつくるリーダーセミナー

1 ねらい

- (1) 地域をつくる人材の育成を目指した学習を通し、生徒会役員として学校づくりを牽引してきた経験を、将来の地域づくりにも活かしていけるよう育成する。
- (2) 地域社会に目を向け仲間と活動している方や人と人との関わりを研究している方による実践的な学習を通し、リーダーに期待される資質能力を育成する。
- (3) 県内各高等学校の生徒会役員等の相互交流及びネットワーク形成を支援する。

2 期日・会場

- (1) 令和5年12月10日(日)
酒田駅前交流拠点施設ミライニ(庄内会場)
- (2) 令和5年12月17日(日)
山形県青年の家(内陸会場)

3 参加対象

県内各高等学校等の生徒会役員等(各校3名程度)

4 日程・内容

- 10:00 開講式
- 10:10 互いに知り合いになろう・班ごとに情報交換(各学校の地域活動紹介)
- 11:10 青年リーダーからのメッセージ
「やっぱり遊びしか勝たんかった。地域をフィールドにした仲間づくり」
講師 東北公益文科大学1年生
安藤 希祥 氏 小川 萌衣 氏
「若者の力が山形を変える～高校生のための地域創生入門～」
講師 株式会社かほくらし社・河北町地域おこし協力隊 菊地 航平 氏
- 13:00 ワークショップ
「次はあなたが青年リーダー！地域の課題に何ができる！？学校の枠を超えたアイデア会議を開こう！」
講師 尚絅学院大学人文社会学群
人文社会学類 教授 松田 道雄 氏
- 15:35 閉講式



5 参加者

- (1) 庄内会場 参加総数 22名
(高校生20名、教職員2名 参加校数6校)
- (2) 内陸会場 参加総数 45名
(高校生40名、教職員5名 参加校数14校)

6 成果と課題

- (1) 成果
 - ①今年度は各校の地域活動紹介をプリント配布にすることで発表時間を短縮させ、その分班内での交流および情報交換の時間を多く確保した。その甲斐もあり午後のワークショップのアイデア会議もスムーズに進み、短時間で実りある発表会を行うことができた。
 - ②地域づくりにおいて第一線で活躍している方の実践例を学ぶことで、地域に貢献するための具体的な方法をイメージ化できた。
 - ③ワークショップでは講師の提唱する「等話」によるコミュニケーション力アップを図り、地域をつくる人材として確実に必要となるコミュニケーションスキルを向上させた。また、短時間ではあったが、他校生との充実した交流が地域づくりへの意識の醸成につながった。
- (2) 課題
「内陸側の学校とも交流する機会を設けて欲しい」という要望に対して、現実的で効果が得られる交流機会を考えていく必要がある。



(8) 持続可能な社会づくり体験1 「SDGs×スポGOMI」

1 ねらい

- (1) 環境美化活動を通し、「地域の環境と文化の継承」に自立と共助の精神を持って行動する青少年を育成する。
- (2) 持続可能な社会づくりへの参画を目指し、コミュニケーションを行う力・他者と協力する力・繋がりを尊重する態度・進んで参加する態度を育成する。

2 期日・会場

令和5年6月24日(土)

会場：山形県青年の家及びその周辺（舞鶴山を含む）

3 参加対象

中学高校生・大学生・一般県民 定員30名

4 日程・内容

9:30 開会行事

9:40 講座 「海の豊かさを守るために私達ができること」

講師 美しい山形・最上川フォーラム
安部 明子 氏

10:20 舞鶴山を含む青年の家周辺でスポGOMI体験

11:20 競技終了、チームごとクイズの採点・計量
レモネードの試飲

11:40 閉会行事

5 参加者

参加者総数32名+運営ボランティア8名
(中学生10名・高校生29名・大学生1名)



6 成果と課題

(1) 成果

- ① アンケートを見ると、「制限時間があった自分たちでコースを考えながらのゴミ拾いは、よりスポーツ感がありました。」「スポーツでゴミ拾いができるのはすごいと思った。」との感想が多く、大変好評であった。
- ② 中学生・高校生だけでなく、大学生や成人（スタッフを含む）と交流を持つことで学校では体験できない地域貢献活動になった。
- ③ 今回、青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」に運営スタッフとして入ってもらうことで、ボランティア活動への参加だけにとどまらず企画する側（裏方）の仕事も体験してもらうことができ、未来の参画者の育成にもつながった。

(課題)

- ① 当日の欠席者が12名にもなり、その内6名は欠席の連絡もなかった。所属する学校の教員へ、欠席連絡の徹底と参加費徴収をお願いする旨を事前に伝えておくべきであった。



(8) 持続可能な社会づくり体験2「SDGs×地域文化」～山形をA.R.E.しよう～

1 ねらい

- (1) 山形が誇る伝統的工芸品や商店街の活動、そして自治体の取り組みを学ぶとともに講話や座談会、ワークショップを通して、山形の素晴らしさと可能性を考察し、持続可能で元気な山形をつくる次世代のリーダーを育成する。

2 期日・会場

令和6年1月21日(日)・県青年の家

3 参加対象

中学生・高校生・短大生・大学生等

4 日程

- 9:30 開会行事
9:40 講演 「山形仏壇と商店街の取り組み」
講師：小出浩太郎 氏 (小出大佛)
10:35 「推し駒」づくり(講師：小出氏)
11:10 講義 「夢を持って生きる」
講師：研修主査 石井 貴之
11:40 昼食・休憩
12:30 講演 「君は人を紹介することができるか!～つながりと山形の価値～」
講師：菅野 大志 氏 (西川町長)
13:50 写真撮影
14:10 座談会
「山形の魅力と可能性を語ろう」
進行：研修主査 石井 貴之
15:20 若者からのメッセージ
15:40 アンケート入力・閉会行事



5 参加者

参加者総数42名

(中学生1名、高校生30名、大学生3名、社会人8名)



6 成果・課題

(1) 成果

青少年が日頃気にかけることが少ないと思われる仏壇であるが、小出氏からその歴史や各パーツの意味、そして伝統的工芸品としての価値などを学ぶことができた。「推し駒づくり」では参加者が筆運びに苦戦しながらも思い思いの作品を作り上げていた。

菅野氏の講演では先進的な町政について様々な事例を交えながら学んだ。アンケートでは「西川町に住みたい」というものもあり、若者が山形での定住を考えるいいきっかけになったように思う。

座談会を含め、山形の良さを再確認するとともに「こんな山形になればいい」という意見も出て、これからの山形を考察できた研修となった。未来の山形づくりの参画者がこの研修から多く出ること期待したい。

中学生から社会人まで幅広い世代から参加いただけたことはこの研修にとって大きな成果である。

(2) 課題

菅野西川町長がご多忙のところ講演を引き受けてくださったが、公務の都合で予定が変更となった部分があった。仕方がないことだが、今後の研修を計画する上で考えるべき課題である。また、応募の時点からだいぶ時間が過ぎたため研修があることを忘れてしまった参加者が出た。直前に確認のメールなどを送信するなどの対応が必要だと思われる。



(9) 若者自立支援体験活動1 「スポーツでわいわい」

1 ねらい

青少年の「自立」を支援するためにスポーツを楽しみながら人と交流できる場を提供する。また、あたたかい触れ合いの中で活動することで、心身のリフレッシュを図り、社会参加を促す。

2 期日・会場

令和5年6月7日(水)・山形県青年の家

3 参加対象

若者自立支援関係機関、民間支援団体に関わる青少年(定員20名程度)

4 日程

13:00～13:30 受付
13:30～13:40 開会行事
13:35～13:55 アイスブレイキング
14:00～15:30 スポーツ(スラックライン)
15:30～15:45 写真撮影・閉会行事

5 講師

井上 祐 氏
(山形県立山形西高等学校教諭)



6 参加者

から・ころセンター	5名
発達支援研究センター	2名
天童市アウトースクール	5名
山形大学の学生	2名
計	14名



6 成果・課題

(1) 成果

アンケートでは「大変楽しかった」「楽しかった」が100%、また、「今後も参加したい」「参加を考える」が100%であった。初めてスラックラインに乗る参加者が多かったが、最後に外に張った高いスラックラインに挑戦するなど、意欲的な取り組みが見られた。昨年に引き続き天童市アウトースクールの児童・生徒にも参加してもらったが、最初「やらない」と言っていた児童が後半は楽しそうに取り組んでくれたことが大変印象的であった。山形大学地域教育文化学部の学生2名にサポートいただいたが、参加者も学生も大変意義のある時間となったようだ。

(2) 課題

昨年度より「実施日」が課題となっている。平日開催は事業所の行事と重なったりすることも多いため、次年度以降は実施日の柔軟な対応を行い、各事業所の予定を確認して決定できるように改善したい。また、フリースクール等が多く設置されるようになったので、広報活動にも力を入れ、より多くの青少年に参加していただけるように働きかけていきたい。



(9) 若者自立支援体験活動2「アートでわいわい」

1 ねらい

青少年の「ひきこもり」を支援するためにスポーツを楽しみながら人と交流できる場を提供する。また、あたたかい触れ合いの中で活動することで、心身のリフレッシュを図り、社会参加を促す。

2 期日・会場

令和5年10月18日(水)・山形県青年の家

3 参加対象

支援関係機関及び民間支援団体に来所している青少年とその指導者

4 日程

13:00～受付

13:30～開会行事

13:40～アイスブレイキング



講師：研修主査 土橋 明晃

13:50～アート活動(版画)

講師：城山 萌々 氏

土井友希子 氏

(天童アートロードプロジェクト)

15:20～アンケート記入・閉会行事

写真撮影



5 参加者

蔵王いこいの里	13名
若者の居場所ころいき	5名
天童市アウトースクール	5名
山形大学地域教育文化学部	1名
計	24名



6 成果・課題

(1) 成果

アンケートではアイスブレイキング、版画ともに「大変楽しかった」「楽しかった」が100%、また、「今後も参加したい」「参加を考える」が100%であった。『蔵王いこいの里』では施設の行事として常に参加して下さっている。今回も43歳の青年から、9歳の小学生まで幅広い年齢層であったが、講師の先生や各事業所の指導者の方々や山形大学の学生からのサポートもあり、全員が作品をつくり上げることができた。シルクスクリーンの技法を使い、イメージを膨らませながらエコバッグに刷る作業を真剣に行ってくれていた。南陽市から電車を乗り継いで参加してくれた「若者の居場所ころいき」の児童・学生も終始笑顔で取り組んでいた。

(2) 課題

「スポーツでわいわい」と同様に開催日の決定を各事業所に確認しながら行うことが必要である。また、参加人数が多くなれば講師の先生やサポートの方々を増員する必要がある。予算的なことも含めて検討していくべきである。



(10) 家庭教育支援研修会 1 「食育×スポーツ」

1 ねらい

子育てに係る知識を親子で共に学び、体験を通し育ち合う。

2 期日・会場

令和5年7月2日(日)・山形県青年の家

3 参加対象

小学生(1～6年生)の児童とその保護者

4 日程・内容

- 13:30 開会行事(大研修室)
- 13:40～14:30 講義「学童期に摂りたい食事の形と保護者の関わりについて」(大研修室)
- 14:40～14:50 ウォーミングアップ(体育館または芝生広場)
- 14:50～16:10 軽スポーツ体験「親子で楽しむスラックライン」(体育館)
- 16:20～16:30 閉会行事とふりかえり(大研修室)

5 講師

平良 拓也 氏
(仙台大学准教授・YAMAGATAドリーム・キッズ医学委員)

井上 祐 氏
(山形県立山形西高等学校教諭・(一社)日本スラックライン連盟公認B級インストラクター)

小池 智也 氏
(鶴岡スラックラインC級インストラクター)

6 参加者

10組25名



7 成果と課題

(1) 成果

アンケートでは「大変良かった」「大変楽しかった」「また参加したい」という声が大部分を占め、大変満足していただけたようだ。平良先生の飽きさせない工夫をしたわかりやすい食育講座、井上祐先生のユーモアをおり交ぜた、熱いスラックライン講座は親子の心をつかみ、あつという間の時間のように感じた。親子間のコミュニケーションを深める良い機会となり、参加者の笑顔が溢れる講座とすることができた。

(2) 課題

昨年度の反省点を踏まえ、参加対象児童の条件を緩和し、小学1年生から6年生まで広げて実施した。スラックライン体験については問題がなかったが、食育講座については講話の内容・程度を絞りにくかったと思われる。



(10) 家庭教育支援研修会2 「コミュニケーション×アート」

1 ねらい

児童とその保護者を対象に、コミュニケーションに係る知識を親子で共に学び、アート活動を通して育ち合う。

2 期日・会場

令和5年11月12日(日)

会場：山形県青年の家

3 参加対象

小学生(1～6年生)とその保護者

定員10組20名程度

4 日程・内容

13:00 開会行事

13:10 アイスブレイキング

講師 東北芸術工科大学の学生

13:30 アート活動

「ハデハデ! スキスキぼうしを作ろう・デコろう!!」

講師 石沢 恵理 氏

(東北芸術工科大学専任講師、兼児童アートロードプロジェクト実行委員)

15:30 閉会行事

5 参加者

参加者総数 5組13名

(幼児1名・小学生6名・保護者6名)



6 成果と課題

(1) 成果

家庭教育支援研修会でアート活動を取り入れて2年目となるが、今年も参加者からは大変好評であった。ぼうし作りでは、親子で互いに好きなものをインタビューしたり、設計図を一緒に考えることで、ものづくりを通じた対話の時間を生み出すことができた。帰り際、親と一緒に作ったぼうしを嬉しそうに持って帰る子どもと、それを笑顔で見つめる保護者の姿から、親子の絆が深まったことが見て取れた。

(2) 課題

当日1家族3名の欠席があったものの参加者募集に苦労した。昨年度より参加費(材料費と保険料)の価格を下げてみたが、それ以上に、周知の方法等に課題を感じている。プログラム内容と参加者の満足度が高いことから、より多くの参加者を募る方法について、情報収集をしながら検討していきたい。



3 令和5年度研修利用団体一覧

1 子ども会の研修

天童市子ども会育成会連合会	蔵増地区子ども会育成会連合会	東根市子どもクラブ育成連絡協議会
---------------	----------------	------------------

2 幼稚園・保育園の研修

天童幼稚園	つくし保育園
-------	--------

3 小学校やスポーツ少年団等の研修

天童市立津山小学校	天童中部 S S S	天童ミラクルVクラブ
天童市バドミントンスポーツ少年団	千歳スポーツ少年団バレーボール部女子	千歳スポーツ少年団バレーボール部男子
けやき J V C	ほなみスポーツ少年団女子バレーボール部	おもだか J V C
山形ジュニアソフトテニススポーツ少年団	W B C	山形チアリーディングチームGLOOVERS
バスケットボールスクールハーツ	H O O P i s L I F E	リーフラススポーツスクール
青森県木崎野小バレーボールクラブ	l s t. R e v. B C	天 J ソフトテニス
V C 天童	T G B スポーツ少年団	A T 4 G

4 中学校の研修

(1) 学年宿泊研修

天童市立第一中学校	東北学院中学校
-----------	---------

(2) 生徒会リーダー研修会

なし

(3) 部活動研修

天童一中男子バスケットボール部	天童三中女子バスケットボール部	庄内町立余目中学校合唱部
金井中学校男子バスケットボール部	金井中学校男子バレーボール部	

(4) その他

かしわ男子バスケットボールクラブ	T-t h i r d B B C	サンデーシャトルズ
ブルーウイロー	山形スマイルガールズ	T バ ド
天童バド	西崎クラブ	S P T
山形五中ジュニアバドミントンクラブ	アビリティィ	T K S
東学 V B C	F 5 C	金井ジュニアバスケットボールクラブ
山形五中バドOB会	東根バレーボール	神町中男子バスケットボールスポーツ少年団
城東剣道クラブ		

5 高等学校の研修

(1) 学年宿泊研修

東北学院高等学校

(2) 生徒会リーダー研修会

なし

(3) 高校関係諸団体

山形県高文連書道専門部	山形県総合学科高等学校発表交流会
-------------	------------------

(4) 部活動関係

羽黒高校硬式野球部	天童高校ダンス部	山形城北高校女子バレーボール部
宮城県石巻商業高等学校男子バレーボール部		

(5) その他

なし

6 大学・短期大学の研修

- (1) 学校関係
なし
- (2) サークル合宿等

山形大学競技舞蹈部

7 専修学校・各種学校の宿泊研修

- (1) 学校関係
なし
- (2) サークル合宿等
なし

8 企業等の研修

- (1) 新入社員研修
なし
- (2) 社員研修・会議

株式会社 山形ビルサービス

9 行政等の研修

生涯教育・学習振興課「東北大学社会教育主事講習」	山形県スポーツ少年団 村山地区協議会
--------------------------	--------------------

10 社会教育団体の研修

山形県キャンプ協会	ガールスカウト山形県第8団
-----------	---------------

11 サークル等の研修

中井バドミントン愛好会	神町バドミントン愛好会	ピ	ボ	ッ	ト
山 商 バ ド	S o u t h	N	F	C	

12 ボランティア関係

村山教育事務所「MYボランティアスキルアップセミナー」	村山教育事務所「MYボランティアサークル交流会」	ボランティアサークル「nicoこえ」
-----------------------------	--------------------------	--------------------

13 その他

ローターアクト	放課後等デイサービス事業所つぼみ	放課後等デイサービス ハートテラス
---------	------------------	-------------------

○ 合宿関係（2泊3日以上）

《2泊3日》

なし

《3泊4日》

羽黒高校硬式野球部	東北学院中学高等学校
-----------	------------

《4泊5日》

山形大学競技舞蹈部(8月・2月)

《5泊6日》

なし

4 令和5年度研修利用状況

(1) 主催・受入事業別利用状況

主催研修			受入研修			合計		
団体数	実人数	延人数	団体数	実人数	延人数	団体数	実人数	延人数
23	493	493	359	7,321	8,348	382	7,814	8,841

(2) 団体別利用状況

ア 成人・一般

区分	団体数	実人数
社会教育	268	252
企業関係	3	124
その他	71	71
計	342	447

イ 幼児・児童・生徒・学生

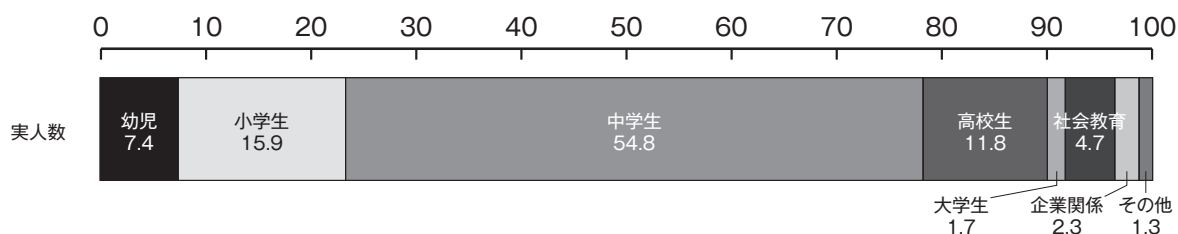
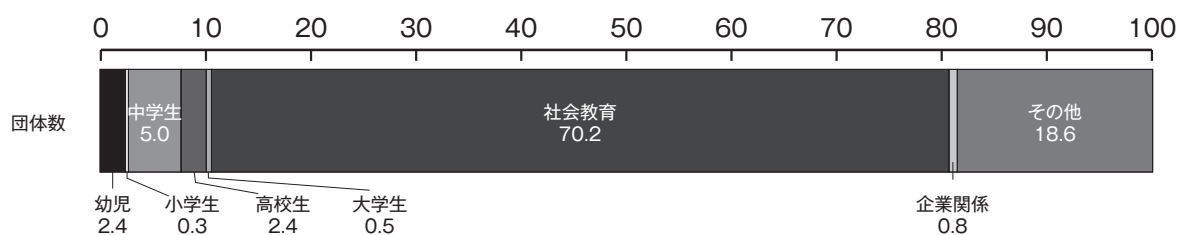
区分	団体数	実人数
幼児	9	402
小学生	1	863
中学生	19	2,968
高校生	9	640
大学生	2	93
計	40	4,966

ウ 指導者・引率者

実人数
2,401

(3) 利用状況の割合（団体・利用者）

区分	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	社会教育	企業関係	その他	計
団体数	9	1	19	9	2	268	3	71	382
%	2.4	0.3	5.0	2.4	0.5	70.2	0.8	18.6	100
実人数	402	863	2,968	640	93	252	124	71	5,413
%	7.4	15.9	54.8	11.8	1.7	4.7	2.3	1.3	100



(4) 宿泊数別利用状況

区 分	日 帰 り	1 泊	2 泊	3 泊	4泊以上	合 計
団体数	358	20	0	2	2	382
%	93.7	5.2	0.0	0.5	0.5	100.0
実人数	7,168	470	7	133	36	7,814
%	91.7	6.0	0.1	1.7	0.5	100.0

(5) 月別利用状況

月	研修日数	団体数	実人数	延人数	1日平均人数	利用率(%)
4	30	14	310	374	12.5	5.8%
5	31	27	711	766	24.7	11.5%
6	30	25	570	633	21.1	9.9%
7	31	38	542	582	18.8	8.8%
8	31	36	966	1,196	38.6	18.0%
9	28	30	773	788	28.1	13.2%
10	31	40	1,037	1,156	37.3	17.4%
11	28	26	488	515	18.4	8.6%
12	28	39	730	730	26.1	12.2%
1	27	40	611	620	23.0	10.7%
2	26	30	491	565	21.7	10.2%
3	30	37	585	916	30.5	14.3%
計	351	382	7,814	8,841	25.2	11.8%

(6) 年度別利用状況

年 度	研修団体数	研修実人数	研修延人数
昭和42年度～平成20年度	15,826	505,370	1,067,556
21	475	10,956	14,291
22	469	11,114	15,221
23	516	12,709	16,510
24	546	14,529	20,792
25	528	12,847	18,140
26	495	11,306	15,503
27	500	11,764	15,813
28	511	11,000	15,390
29	441	9,593	13,630
30	381	9,476	13,938
令和元年度	289	6,718	9,106
2	289	4,259	4,325
3	240	3,622	3,835
4	245	4,100	4,427
5	382	7,814	8,841
計	22,133	647,177	1,257,318

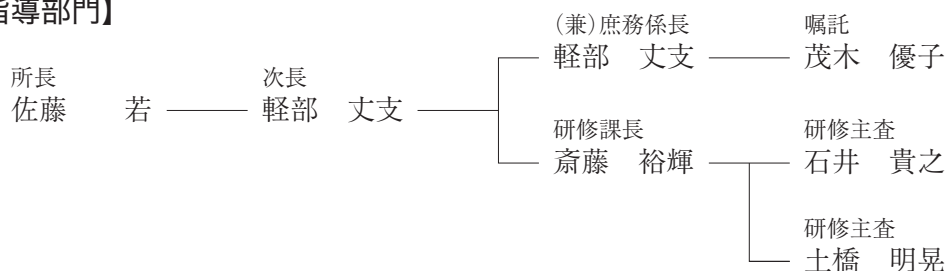
※数値は令和6年3月31日現在のもの

5 令和5年度研修利用実績一覧

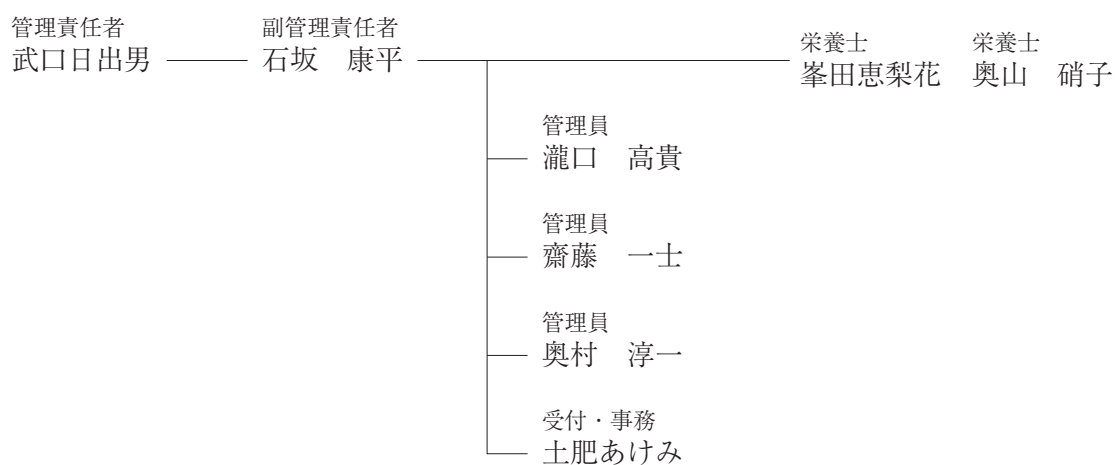
期間	利用者区分		幼児・児童・生徒・学生						成人・一般				実利用者数		利用者総数		開所日数	研修日数	
	人数	団体	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	小計	社会教育	企業関係	その他	小計	指導者	計	累計	計			累計
4月	0	80	0	104	0	0	0	184	0	0	0	0	126	310	310	374	374	5.8%	30
	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	6	14		14	14				30
5月	0	96	0	357	14	1	468	46	0	0	0	46	197	711	1,021	766	1,140	11.5%	31
	0	1	4	0	0	0	5	14	0	8	22			27	41				31
6月	0	33	0	195	98	2	328	20	0	21	41	201	570	1,591	633	1,773	9.9%	30	
	0	0	2	1	0	0	3	13	0	9	22		25	66					30
7月	0	71	0	160	22	3	256	88	0	12	100	186	542	2,133	582	2,355	8.8%	31	
	0	0	0	0	0	0	0	31	0	7	38		38	104					31
8月	13	100	100	379	100	39	631	17	30	2	49	286	966	3,099	1,196	3,551	18.0%	31	
	1	0	1	1	1	1	4	26	1	5	32		36	140					31
9月	254	16	16	243	48	3	564	4	0	1	5	204	773	3,872	788	4,339	13.2%	28	
	6	0	1	0	0	0	7	22	0	1	23		30	170					28
10月	118	175	175	256	65	2	616	13	63	0	76	345	1,037	4,909	1,156	5,495	17.4%	31	
	2	0	0	3	0	0	5	28	1	6	35		40	210					31
11月	1	55	55	197	23	0	276	0	31	6	37	175	488	5,397	515	6,010	8.6%	28	
	0	0	0	0	1	0	1	17	1	7	25		26	236					28
12月	16	65	65	331	80	5	497	2	0	16	18	215	730	6,127	730	6,740	12.2%	28	
	0	0	0	0	1	0	1	34	0	4	38		39	275					28
1月	0	63	63	293	37	3	396	31	0	0	31	184	611	6,738	620	7,360	10.7%	27	
	0	0	0	3	1	0	4	32	0	4	36		40	315					27
2月	0	45	45	203	38	35	321	31	0	13	44	126	491	7,229	565	7,925	10.2%	26	
	0	0	0	3	0	1	4	19	0	7	26		30	345					26
3月	0	64	64	250	115	0	429	0	0	0	0	156	585	7,814	916	8,841	14.3%	30	
	0	0	0	5	1	0	6	24	0	7	31		37	382					30
合計	402	863	863	2,968	640	93	4,966	252	124	71	447	2,401	7,814	7,814	8,841	8,841	20.4%	351	
	9	1	19	9	2	40	268	3	71	342		382							351

6 組織および職員構成

【指導部門】



【管理部門】 ※山形県青年の家管理企業体（指定管理者）



令和5年度 研修のあゆみ 一年報

発行 令和6年3月31日
 編集・発行 山形県青年の家
 〒994-0032 山形県天童市小路一丁目7番8号
 TEL 023-654-4545
 FAX 023-652-2007
 <ホームページ>
 URL : <https://www.pref.yamagata.jp/701005/kensei/shoukai/soshikiannai/kyoiku/701005html>
 <YYボランティアビューロー>
 URL : <https://seinen.jp>
 <X(旧ツイッター)>
 URL : https://twitter.com/seinen_yamagata
 <インスタグラム>
 URL : https://www.instagram.com/seinen_yamagata
 <ユーチューブ>
 URL : https://www.youtube.com/@seinen_yamagata

印刷 株式会社 大風印刷 営業企画事業部 天童営業所
 山形県天童市東久野本一丁目1番45号